

令和6年度 第1回宇治市部活動地域移行検討委員会会議録

会議名	令和6年度 第1回宇治市部活動地域移行検討委員会
日時	令和6年7月25日(木) 18時00分～20時00分
場所	宇治市役所 8階 大会議室
出席者	(委員) 長積委員長 林口副委員長 平田委員 木村委員 矢野委員 中西委員(欠席) 青木委員 杉本委員 清水委員 須田委員 村上委員 (事務局) 木上教育長 福井教育部長 川崎教育副部長 武田教育支援センター長 安留学校教育課長 福山生涯学習課長 天花寺学校教育副課長 葛山学校教育課総括指導主事兼教育指導係長 宮脇指導主事 吉田学校教育指導主事 脇坂産業観光部長 柏木産業観光副部長 岡部文化スポーツ課長 倉井文化スポーツ副課長 菅居文化スポーツ係長 石塚アドバイザー
配布資料	令和6年度第1回宇治市部活動地域移行検討委員会説明資料
1 開会 ・木上教育長 開会挨拶 ・各委員自己紹介 ・事務局自己紹介 ・趣旨説明 ・設置要項に基づき、委員長に長積委員、副委員長に林口委員を選出 ・長積委員長挨拶 ・林口副委員長挨拶 2 報告及び協議事項 (1) 報告1 宇治市の学校部活動の状況について 資料に沿って事務局から説明 (2) 報告2 国が進める地域移行について 事務局アドバイザーから説明 報告2についての質疑と応答 (委員長) まずは現状を把握し、それを踏まえ各中学校でできる地域連携・地域移行のパターンを見据えていく。その前に宇治市全体としての大きな枠組みと、委員会の方針を考えていく必要がある。 (委員) 他府県の事例で、多様なニーズに対応する選択肢としてマルチスポーツがあるが、行っている自治体はあるのか。 (アドバイザー) 複数のクラブを体験・参加することを認める自治体はある。ただ、中体連にクラブとして参加する	

場合には、どちらか選ばなければならないという制限がある。制度上の整理は必要。

地域全体として、マルチスポーツというクラブを作っているところもある。

(委員)

マルチスポーツが多様化したニーズに合っているのであれば、中体連のあり方や、全国大会をどうするのかと繋がると思うが、何か議論されていることはあるのか。

(アドバイザー)

地域クラブ側が主導権をもつか、学校部活動が平日残れば学校が主導で出るのかという議論がある。

関東の事例では、地域クラブとして出ることを原則としている自治体もあり、それがかなわない場合には、調整するという方針の自治体もある。この先、いろいろな議論がより深まると思う。

(委員長)

マルチスポーツに関しては、例えば、フィットネス部、何でもやる部、ダイエット部など、多種多様な地域クラブが生まれている。

(委員)

そもそも学校の部活動とは何か、という議論から地域移行の議論に移られた自治体はあるのか。

(アドバイザー)

地域移行が進んでいるところでも、部活動がいいか悪いかという議論はほぼない。今までの部活があり、それが有効な手だてであった。部活動をもう1回整理し直すことはやっていないかもしれない。

(委員長)

部活動を否定する方はおられず、教科教育の姿で見えないところを部活動、課外活動で見ることによって子どもたちの多面的な場面が見られるという意義に対して誰も否定をされていないということ。

部活動そのものの意義を認めないのではなくて、このままいくと、先生方の篤志に頼らざるをえないということ。これから子どもたちを中心とした仕組みを、地域、学校、家庭で作っていくのかを考える機会が、この部活動の地域連携・地域移行の課題なのだと思う。

(委員)

地域移行されている自治体は民間に移行が多いと思う。この民間に移行している地域は、地域の生徒は中体連の大会に出ているのか。

(アドバイザー)

一般社団法人、NPO法人、総合型地域スポーツクラブなども含め外部のところを民間としている。各地域の中体連も、地域クラブごとでの中体連への参加は認めているところが多く、種目によって濃淡があるが加速していく。地域移行が推進した先には、地域クラブで中体連への参加を考えている自治体も多い。種目により変わるが、基本的にはそういう考え。学校で出るのか、地域クラブで出るか、どちらが優先権を持つのかを決めていかなければいけない。宇治市はどういう方針を持つかが重要。

(委員長)

中体連が、何を目的として、何を目指す大会なのか再定義が求められてきたときに、中学校だけの大会にするのか、それであればもうクラブの大会に行くのか、住み分けは検討する必要がある。

(委員)

中体連としては、勝利至上主義で全国大会に行くことだけが目的ではなく、宇治市の大会で1勝することが目的、目標というチームもある。子どもたちと、常に目標をどこに置くか、山城大会出場と

か、府大会は行きたいとか、中には、楽しくやりたいという子もあり、できることを考えて活動している。中体連も合同チームや拠点校部活動もできるし、やれるようにしていけばいい。まだ主体は中体連なので、クラブチームを入れることはできるが、広く出てくださいという雰囲気はまだ。大会の運営や費用など難しいところがある。チームも、例えば府県を跨っているとか、いろんな条件があり難しい。

お金がかかるときに、教育委員会の予算も限られている。教育部局が中心のところと首長部局が中心のところ、何かそういうものがあれば教えていただきたい。

(コーディネーター)

財源は重要。教育委員会か、首長部局かという2択ではなく、教育委員会からスタートして首長部局も連携し合うケースが多い。庁舎内の勉強会を定期的に行っている自治体もある。議題を教育総会議に上げて、首長直下のもっとどういう方針を示して使うかという議論が進んでいるところもある。

(委員長)

多くのところは、両方がスクラム組んでいる。

今回、文化スポーツ課と、学校教育課のみならず、生涯学習の視点で一気通貫できる形で、この問題をとらえていきたいと事務局と前段で話をし、たくさんの方々に連携してもらうことにした。

先ほどの山口県の事例は、もともと学校教育課がイニシアチブを取ったところから、観光文化スポーツ部のスポーツ推進課が、今はイニシアチブをとる形でスクラムを組んでいる。

山口県が非常に面白いのは、多くの市町村で学校教育の部局と、スポーツ振興の部局が、一緒になってやれるように、部活動改革推進室を作って、そこから部局の人たちを、集めて話をされている。宇治市の文化を振興する、特に文化行政を重視していることもあるので、その形でできるならば一体になってやりたいという思いがあって、多くの方に関わっていただいている。連携型が比較的多い。

(委員)

最初の目的及び設置のところで、3つ重要なことがある。望ましい部活動環境の構築が1点、今現在本当に困っている地域がある。宇治市でも西側と東側の地域と、状況も違い合同部活動などで子どものプレーの場所を構築しているという学校がある。困っている学校を何とかするというのが大事。

あと教職員の働き方改革の実現というのが2点目。やりたいという4割の先生方がしっかりと兼職兼業ができるようなシステムが必要になってくるので、しっかりと見ていかなければいけない。

最後に、やはり生涯スポーツに行き着くので、最初のイニシアチブは学校教育課がとっていると思うが、産業も含めて、全市的にしっかりチームとしてまとめ上げないと立ち行かなくなる。

先ほどの話もあったが、まさにそこがポイントになってくるのではないかなと思う。

(事務局)

子どもたちがやりたいクラブ活動ができるようにしていく方策として地域に移行していこうという考え方がある。そのために、地域でスポーツ活動や文化活動をされている団体も一緒になって、この課題を考えていこうとしているところ。

ただ、我々も学校での課題や状況をよく分かっているわけではなく、まずは教えていただきたいし、それをどのように移行できるのか、受け皿が本当にあるのかどうかも含めて、検討していきたい。そのため、教育もスポーツ文化の部局も一緒にかかわらせていただいている。

(委員長)

総合型地域スポーツクラブが何年も続けていくうえで課題は人、金、仕組み、組織体制をどうやっていくか、総合型地域スポーツクラブの育成のときに行き詰まるのは3つ。我々が見据えておかなければいけないのは、まず、どこに宇治市がどうやって向かっていくのかというあるべき姿を描くことと、そのために必要な仕組みづくり、人、金、そして仕組みを考えることをご理解いただきたい。

1つ質問ですが、実は、文科省スポーツ庁が段階的に休日から行っていて、平日は今のところ、あまりっていない。平日も見据えている自治体が、あれば伺いたい。

(アドバイザー)

多くは、休日からということを考えて、平日も含めてやろうとすると、兼職兼業を含めた先生方の支援をどうするかということで、先生方のサポートをいただける仕組みを作りつつ、外部の方でその平日も含めてできるというのであればやっている自治体もある。長崎県長与町はそういうイメージ。

結構そのハードルにあたるケースが多い。そこは少し整理しながら、同時にやることも予想できますし、財源の確保の範囲は広がると思う。その整理が必要かと思う。

(委員長)

こういう議論はこれからたくさんできればいいと思う。アンケートについて事務局から説明を。

(事務局)

今回のアンケートは、小学校5・6年生とその保護者、中学校1・2年生とその保護者に実施したい。小学生には現在活動している地域での活動の内容や中学校進学後も続けるのか、部活動に入部するかなどを聞きたい。中学生には、現在の部活動並びにその他で活動している内容、保護者には、学校部活動やその他の活動についての考え方、費用面も含む地域クラブ活動に対する考えを聞きたい。

(委員長)

学校の教員に対するリサーチが抜けている。学校の教員のデータも取りたい。

部活動地域連携・地域移行に協力する可能性がある団体にもデータを取りたい。

あと、ニーズ調査の中で、やってみたい種目とか、競技名とか書いているが、我々の枠組みにとられない種目に対してのニーズも取る必要がある。少し検討させていただきたい。

(委員)

どういう形でアンケートを取るのか。

(事務局)

Formsを活用して実施したい。

(委員長)

今日の話も踏まえ、皆さんの団体の現状とか、宇治市の文化、スポーツを含めた文化の振興について、気づきや、考えを少しずつお話いただきたい。

(委員)

今、スポーツ協会でいろんな課題があるが一番多いの、やはり会員の高齢化と減少。

少子化にも繋がることだと思うし、求めているものが生涯スポーツということで、少しずつ意識は変わってきている。特に今回、土日の議論だけでなく平日も含め議論いただけると思うが、優秀な指導者は、仕事を持つ人も多く、平日の夜間を使うことも考えていかないと、土日だけでは自分の活動があるので、なかなか難しい。ナイター設備を中学校につけて活用することも検討していければいい。

(委員)

スポーツ少年団も団員数年々減ってきて、昨年度は京都府でついに1万人を切ったという状態。傾向は、子どもが少なくなるのと同時に、指導者が高齢化してきた。若手の指導者が、あまり入らない。

中学校の指導では、スポーツ少年団の場合は、だいたい球技関係は小学生で終わり。ところが、武道関係などは、中学生まで活動している。武道関係以外の小学生までの指導をしている人が今度中学校の指導をできるのかが少し疑問だが、武道は、今の指導者を見ると、多分、十分できると思う。

(委員)

文化団体も高齢化になっている。

地域連携というとバラ色のように思われるが、地域が全部高齢化になっている。それから、文化団体の方は趣味の延長上みたいなことになっており、そういった面で、高齢化が大きな課題。

そこへ、コロナ禍が余計高齢化に拍車をかけた。毎年100名ぐらい会員数が減っていく状況。

子どもたちに教えた気持ちはあり、こういう機会で文化活動を地域と連携できるなら協力したい。

(委員)

部活動の地域移行は保護者の中でも気になる内容だと、いろいろな方と話をしても思う。学校の先生方の働き方改革については、否定する声はほとんど聞いたことはなく、誰もが納得すると思うが、地域移行は、不安が強いと思う。

費用面にしても、やりたいクラブがあるのかどうか不安が出てくると感じている。

(委員長)

どのようにやってほしいと保護者は思うのだろうか。

(委員)

自分の子どもが小学校のときにやったスポーツが、中学校の部活動にないという声はよく聞く。その部活動がないため違うところへ行く、場合により学校を変えるお子さんがいたり、行く学校の部活動が強くなければ、地域のスポーツ団体に最初から入るお子さんもおられる。どういう活動を目指しているかによって、入る部活動のニーズとは乖離が出てきたりしているとすごく感じる。

(委員長)

仕組みが変わることによって、受益者負担のこともあるが、保護者の方々はどう考えているのか。

(委員)

費用が発生するのかよくわからない。公的な支援があつて費用が負担されるのか、自腹を切らなければならないのか、ということすらわからないというのが現状。

(委員長)

早い段階で、学校の現場と、保護者の方々に説明するのが非常に重要。今のお話を聞き、こんな情報を得て、こんな感じで、今考えようとしている、ということを早く現場の先生方と、保護者の方々に発信すべきなのがよくわかった。

(委員)

大人の都合で、子どもの不利益にならないように。部活動の地域移行も、子どもが本当にどう思っているのかが一番大事だと思うので、今の中学生や、最近まで中学生だった高校生が、部活動は一体どういうものだったのかということに耳を傾けることは大事。地域移行で、次の時代の子たちに対して何か心配することがあると思うので、そこを酌み取る必要があると思う。

よくヨーロッパの話もされるが、文化が全然違うし、本当にしっかりとクラブを作ることを、

本気で宇治市として考えるのであれば、学校も当然応援していくと思う。ただ、何か作るつもりでうまくつくれなかった、子どもがやりたいことができなくなっていく、部活動はお金が要らなかったのに、地域の活動にはお金が必要になる、親は送ってくれない、どうやっていくのか、そういう悪循環になり子どもが結局部活動でやっといたらよかったのにと思わなくて済むような、10年、15年後に本当に持続できる地域クラブを作っていく、活動する場所を作っていくことが一番大事だと思う。

先ほどのように、高齢者が指導され、指導者の確保が難しい。お父さんお母さんの年代の方たちも非常に大事。どういう方法があるのかわからないが、ぜひとも協力はしたいと我々教員も思う。

(委員長)

非常に心強いお話ありがたい。

(委員)

私も教頭の立場と吹奏楽の立場で来ているので、いろんな思いを持ちながら聞かせていただいた。吹奏楽は部活動の中でも莫大なお金を使いながら、やっており、運営は難しい。宇治市の場合は10中学あって、さらに立命館宇治中学校も1つ入って11の学校で吹奏楽連盟を作っているが、この間も合同の演奏会をしてお互いの技術をみあって、中学校全部で支え合って、情報交換をしながら支え合ってやろうという土壌が今、中学校の中でできている。

ただ、それだけでは苦しいところがあるので、地域連携をする中で地域からも応援や、支えがあれば、こんなに心強いことはない今日の会議の中でちょっと自分の中でイメージができてきた。

(委員)

宇治市の生徒数が減ると、教員の数が減るので、廃部や募集停止している状況があるので、地域移行も含めてスピーディーに対応しないと、実際の子どもたちは本当に行き場に困る現状が起きるので、スピーディーに動かせられたと考えている。

(委員長)

現場の先生方が待ったなしの状態。ぜひ新しい仕組みができればと思う。

(委員)

運動部活動で経験のない先生方が技術指導で苦しむことは多くある。自分自身も例えば陸上とかサッカーとかの顧問になったら絶対困る。今は部活動を楽しんでいるが、違うスポーツになったときに苦しむとを感じる。地域移行、積極的に考えてもらえると、教師側も負担が減ると思う。

(委員長)

やはり専門性をお持ちになれる方々が、兼職兼業でもよいという意見もあると思うので、そのエネルギーをうまく、教員の方も含めて、活用できるような新しい仕組みができればと思う。

(副委員長)

非常に皆さん熱く語っていただいて、子どもに関わることで、大切だなというのを改めて感じた。私の方からネガティブなことを言うより、むしろこの地域展開で期待されることを描きながら作っていかなければいけないという部分もあると思うので、学校と子どもと地域に分けた場合、学校としては専門、専門外であることも含めて、その部活動に対する働き方というのも変わってくる部分と、時間外勤務も、減っていく見通しもある。部活動は実は教育課程外という部分があり知られていない。教育課程の中身に傾注していける、教員が力を注いでいけるというような部分ではこれはメリットでもあると思います。

一方、子どもに目を移してみますと、子どもにとっても新たな活動にチャレンジするチャンスが生まれてきたりもしますし、より専門的な指導が受けられるというようなこともあるかもしれませんし、そういった部分ではメリットもあるのかと思います。

最後に地域の話になりますと、キーワードは地域だというふうな言葉もありましたように、やはり生涯学習、生涯スポーツ、こういったものがどんどん推進するきっかけになるのではないかというポジティブな見方もできるのかなと。

地域の各世代が繋がるチャンスにもなっていくのではないかなというふうな見通しも立ちますので、質の高い、濃度の濃い会議にしていって、どんどん意見を出して今日のように、より宇治市としてこういう形でやっていきましょうというような見通しが立てればなというふうに考えていますので、ご協力よろしくお願いします。

(事務局)

事務連絡

3 閉会

福井教育部長から閉会の挨拶